

5 . 実証実験のまとめ

本調査研究会で行った実証実験から得られた方向性を示す。課題に対しては解決の方策や様々なアイデアを得られた。実証実験の結果とこれらをあわせて検証を行う。

5.1 課題と解決方策

4章で挙げられた課題を中心に、解決への検討を行った。概要をまとめると表5.1のようになる。

表5.1 モニター調査から得られた課題と方策の検討

分類	モニター調査質問項目	評価	課題に対しての方策の検討
操作性	ボタン操作	良好	-
	電子タグの貼り付け位置	位置は分かりやすいが、個室に入る前に便器の種類、方向を知りたい	電子タグの位置を更に、分かりやすくするため、貼り付け位置をルール化する。また個室の外側に貼り付ける方法もあるがルール化は難しい
	電子タグの読み取り操作	読み終わるまでの状況が把握できないので、手間取ると感じる	動作の正常進行を電子音で知らせる
	電子タグの貼り付け高さ	良好	-
	携帯電話とリーダーの操作性	良好	-
	携帯電話、リーダーの形状	大きくて持ちにくい	リーダーの小型軽量化、リーダーと携帯電話の一体化の必要あり
ガイダンス	ガイダンスの聞き取り	良好	-
	表現の分かりやすさ(便器)	方向が分からなくなってしまう	分かりやすい起点を定めルール化する。ブロックごとに起点となる位置をアナウンスする
	表現の分かりやすさ(ペーパー)	同上	同上
	表現の分かりやすさ(水栓レバー)	方向が分からなくなってしまう	分かりやすい起点を定めルール化する。ブロックごとに起点となる位置をアナウンスする

ガイダンス		ガイダンス項目の過不足	項目の追加を希望 (荷物置場、フック、ゴミ箱など)	追加により長文になるので、項目ごと、またブロックごとに頭出し機能を付ける
		読み取ってから、ガイダンスが始まるまでの時間感覚	正常に読み取っているのか見えないので不安	情報取得中に「お待ちください」など、動作が進行中であることを知らせる。完了後も同様に必要
公共トイレ音声案内システム		使用の希望	良好	-
		端末の購入	廉価なら購入	「廉価」の評価が難しい
		個室以外に希望する情報	-	-
		使用する公共トイレ	-	-
音声案内システム		自宅で希望する音声案内	-	-
		外出時に希望する音声案内	-	-

5.2 課題に対しての解決とアイデア

本調査では、様々なツール、システム、通信手段などの組み合わせの実験と最適なガイダンスの在り方について調査を行っている。調査はトイレ個室に限定して、焦点を絞って実施した。個室までの誘導や自宅での情報取得などを混在させると、どの段階で情報取得するかによって、相互に影響が出る。これらを考慮しながらの実験となると、視覚障がい者の自宅からの行動のプロセスを追っていくことになり、ガイダンス内容やツール、システムは行動全体を前提に設定しなくてはならないからである。

本調査ではまず、個室でのガイダンスの最善案を模索し、標準化できることを目指した。前章で挙げられた課題に対しての解決方策とアイデアを以下に示す。

(1) ガイダンス

ア ガイダンス文の項目

ガイダンスは3項目だけではなく、もっと多くの項目についての要求が挙がった。しかしながら、項目が増えることで文が長くなり、得た情報を記憶することが困難になる懸念がある。また、繰り返し聞くことは可能であるが、聞きたいところを聞くために長文を最初から全部聞かなければならないといった煩わしさが伴う。そこで、聞きたい部分の先頭に飛ぶことができるような仕組みが考えられる。

- ・最初に全文を携帯電話に取得する
- ・全文を順に聞く